

「2014年タイ・チュラロンコーンサマースクール参加報告書」

京都大学工学部三年 (石井 裕樹)

- ① 今回のプログラムは SEND のプログラムであり、一つのテーマについて日本・タイの大学生合同でプレゼンテーションをするという課題があった。異国の人と合同で発表を作るのは初めての経験だったが、課題の考察を考えるとタイの学生の生の声が聞けたのは異文化交流の点からとても有意義だった。自分のグループの準備のときから楽しめた上、他グループの発表を聞いていてもどれも興味深いものであった。また、タイの学生とは発表の準備時以外にもバンコクの街を案内してもらったり、タイ料理を食べたりとプライベートで一緒に過ごす時間をもつことができ親交が深まった。タイの学生とつながりができたのは将来にとって良かった点だと思う。せっかくつながりができたので今回のプログラムでは教わらなかったが、時間があれば勉強してタイ文字を読めるようになりたい。
- ② 異文化交流におけるポップカルチャーが果たす役割の大きさを再認識した。例えばタイでも日本のアイドルグループが人気で、それをきっかけに会話が弾んだことが何度もあった。あるいは、バンコクは本当に都会で大阪と比べても負けるとも劣らない程だった。しかしその一方で2本ほどメインストリートからはずれるとゴミの多い汚れたストリートがあったりして、発展の裏に格差問題があることも目の当たりにした。
- ③ 主にはタイ語の学習をしていたが、タイ人が受ける日本についての授業にお邪魔して日本文化を紹介する機会もあった。また校外研修として、アユタヤ遺跡や王宮の見学をした。王宮は事前知識なしで訪れたのだが、規模の大きさ・風格に感動した。プログラムに組み込まれていることではないが、現地の学生と交流する時間も多くあった。
- ④ このようなプログラムに参加するとやはり国際交流に意欲のある人・留学経験者と触れ合うことが多い。自分ももともと異文化に関心はあるのでこうしてプログラムに参加するなど異文化に触れる機会を作っているのだが、アクティブな人たちと出会うと現状よりまだまだできることは多いと思わせられる。なのでまだまだ満足せずに国際交流の場に自分の身をおきたい。そうすることで自然と進路にも影響が出てくると思われる。